

仲間づくり教養コース ②国際社会学

## ロシア・ユーラシアのいま

第4回 ウクライナ危機

### ウクライナ危機はなぜ起きたか

日時 11月14日(土) 10:00am~

場所 ふじみ野交流センター 講座室

講師 堀江則雄氏 (法政大学社会学部 講師)

受講生 40名

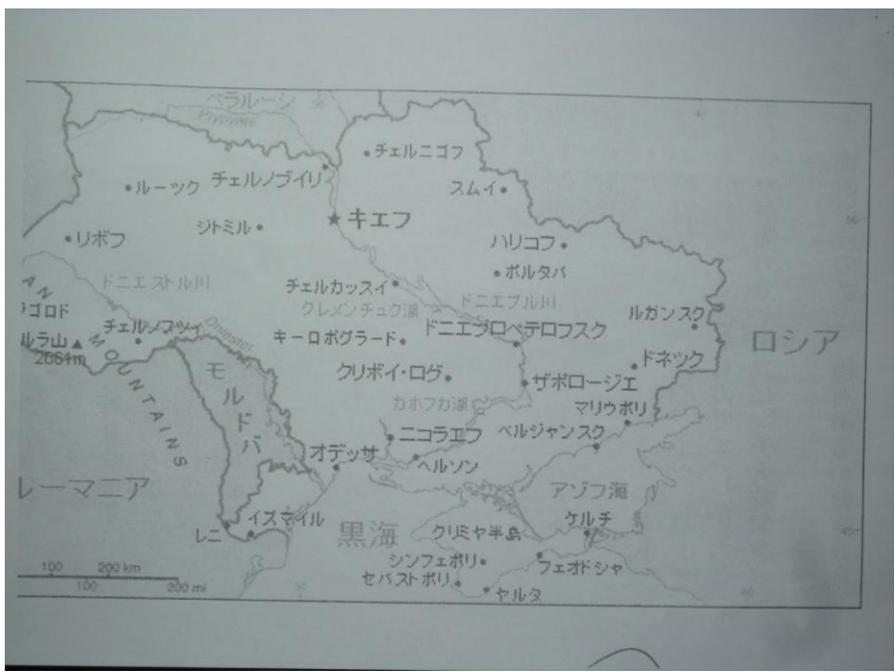
第4回目の11月14日は、奇しくも「埼玉県民の日」。折しも朝から冷たい雨の一日でしたが、県内各地で多くのイベントが開催されたようです。そんなこともあってか、今回の受講生は前回よりも若干少なかった。しかし先生のユーモアある講義は益々熱を帯び、講義終了後の質問攻めにも、懇切丁寧にご説明戴いた。

<はじめに>

- \*ウクライナ：ひまわり、黒土地帯
- \*ボルシチ、ロシア内のウクライナ人多数、融合している
- \*キエフ・ルーシ：正教の受容、コンスタンチノーブル“第三のローマ”  
<キエフはロシアの母なる都市>

#### 危機の経緯——「マイダン革命」とその巻き返し

- \*マイダンとは⇒<広場>の意味 <独立広場>泊まり込み・拠点化
- \*2013年11月のEU経済連携協定調印の延期  
ロシアから130億ドル資金援助、腐敗のまん延
- \*2014年2月<流血の政変> (近隣ソチで冬季オリンピック開催)  
⇒市民運動の盛り上がりと極右勢力の台頭、与野党合意のほご、米国の介入
- \*同年3月、ロシアのクリミア半島編入⇒<領土保全> v s <自決権>
- \*東部ドンバス地方での政府軍と分離派武装勢力との内戦  
⇒死者6500人、難民150万人(人口の4人に1人、うち100万人がロシアへ)
- \*ミンスク(ベラルーシ)停戦協定⇒ロシア・ウクライナ・ドイツ・フランス各首脳



<State>は形成されたが、<Nation>は未だ

- \*<Nation State>⇒国民国家、民族国家、言語、文化・精神風土などで統一
- \*マトロック駐ロ元米国大使の言
- ⇒<Ukraine is a State but not yet a Nation>
- (ウクライナは、政治体制はできたが、国民としての統合ができていない)

- \*歴史的に東西に分裂⇒東部は帝政ロシア、西部はポーランドなど
- \*歴史上1918年～22年に、ウクライナ国民国家の形成
- \*第二次世界大戦の記憶についての溝⇒西部、ガリツィア地方は第二次世界大戦で併合  
東から西へ、様変わり
- \*ナチス・ヒトラーとスターリンについての記憶の溝、ユダヤ人虐殺

### 経済の破綻<失われた20年>

- \*2012年GDP、ソ連崩壊時の84%に落ち込み、ロシアの四分の一（一人当たり）  
平均給与もロシアの半分以下  
但し、編入されたクリミア半島の年金は2倍になった
- \*誇っていた鉄鋼業、農業も破綻⇒指導者の権益争いとオルガリヒの暗躍  
なぜプーチンは人気が高いか⇒オルガリヒの暗躍を断ち切った  
⇒親米派か親ロシア派かで政治指導層が対立、自立発展の潮流が弱い

### NATO東方拡大vsユーラシア連合

- \*NATO=北大西洋条約機構  
加盟年 1999年=ハンガリー、ポーランド、チェコ  
2004年=ブルガリア、ルーマニア、スロバキア、スロバニア、バルト3国（エストニア・ラトビア・リトアニア）  
2009年=アルバニア、クロアチア  
【2008年 ウクライナ・グルジア（ジョージア）・モルドバ加盟検討するも実現せず】
- \*米ロの戦略的思惑の対立、ポスト冷戦体制の終結
- \*NATOの東方拡大<カラー革命>⇒米国の中央ユーラシアにおける影響力に対抗
- \*ロシア：<ロシア世界>までの拡大に危機感・対抗、<ユーラシア連合>
- \*MD（ミサイル）配備⇒NATO緊急展開部隊vs新型ICBMなどの核戦力の強化

### “端”か“架け橋”か <ウクライナの立ち位置>

- \*<小ロシア>扱いへの反発⇒最大の貿易国、エネルギー供給国、債権国でありながら、  
300年以上の長きに亘り<ロシア=大ロシア>しかし<ウクライナは小ロシア>扱い
- \*<端（クライ=辺境）>ではなく、地政学的位置である<架け橋>になることを展望している

【文責：秋山孝昭】